

幕張火星観望会

Mars '18 in Makuhari

In the summer of 2018, Mars made its close approach to the Earth. Therefore, we organized an observation party preparing lots of telescopes. The party was held over two days of August 1 and 2 in Makuhari Bay area. The party had 5,000 or more participants, 135 astronomical telescopes and 404 staff members.

本校の共催による火星観望会が、8月1日・2日、イオンモール幕張新都心前の豊砂公園で開催されました。15年ぶりの火星大接近を迎えて、マスメディアやネットワークの画像を楽しむのではなく、ホンモノの火星を自らの眼で見られる機会を作りたいという思いで、観望会は企画されました。火星だけでなく他の惑星(金星, 木星, 土星)も同時に観察できることから、太陽系天体に触れる良い機会となりました。

夕刻からイオンモールの閉店までの3時間弱で、数千名の参加者に待ち時間のストレスがなく観望してもらうには、少なくとも50台程度の天体望遠鏡が必要でした。そのため、自分たちの望遠鏡を持って観望会に参加するグループの公募が行われ、渋幕天文部は最初に名乗りをあげました。地元千葉の科学館、同好会、高校や大学、東京や埼玉からも多数の申し込みがあり、用意された望遠鏡数は2日間で延べ135台、スタッフは404名、そして参加者は5079名のカウントがされました。これらの数は、今まで日本で実施された天体観望会のなかで最大規模です。

観望会には学生団体エリアと科学館・同好会エリアが設置され、天文部どうしの交流も行われました。また、イオンモール内で室内イベントが実施され、渋幕高校物理部・中学電気部のロボットが出場し、大喝采を浴びました。この火星観望会のようすは、「星ナビ 10月号」、「天文ガイド 10月号」に特集記事が掲載されています。

主催 幕張火星観望会実行委員会

共催 アstroアーツ、イオンモール幕張新都心、高校生天体観測ネットワーク、恒星社厚生閣、渋谷教育学園幕張中高、大日本図書、日本大学理工学部、ビクセン、富士通

後援 日本天文学会、日本天文教育普及研究会、日本惑星科学会、日本公開天文台協会、日本天文協議会、日本プラネタリウム協議会、自然科学研究機構国立天文台



火星観望会公式ポスター



火星観望会当日案内ボード



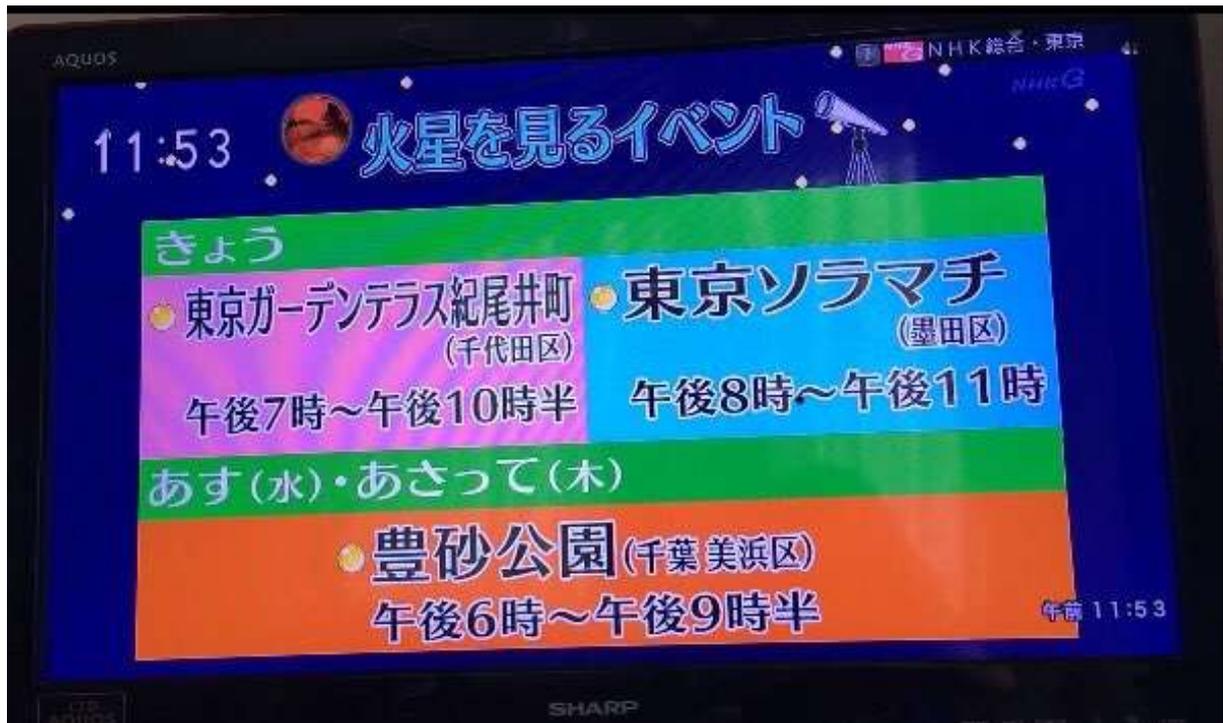
観望会のようす1



渋幕天文部の活躍



渋幕高校物理部・中学電気部のロボット実演



NHK 総合テレビの情報コーナーで当日昼に紹介されました